

指定管理者制度導入館の令和3年度管理運営状況について

資料 1

1 管理運営の状況

1	施設名	仙台市若林図書館	仙台市広瀬図書館	仙台市榴岡図書館
2	指定管理者	株式会社 ヴィアックス	丸善雄松堂 株式会社	丸善雄松堂 株式会社
3	指定期間	平成30年4月1日 ～ 令和5年3月31日	令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日	平成29年4月1日 ～ 令和4年3月31日

2 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野		所見	所見	所見
I	総則	○図書館の設置目的を踏まえて策定された施設運営上の基本方針に基づき管理運営されており、全館共通の業務や行事を適切に行っている。 ○サービスの質の向上や利用促進のための取り組みがなされている。	○図書館の設置目的を踏まえて策定された施設運営上の基本方針に基づき管理運営されており、全館共通の業務や行事を適切に行っている。 ○サービスの質の向上や利用促進のための取り組みがなされている。	○図書館の設置目的を踏まえて策定された施設運営上の基本方針に基づき管理運営されており、全館共通の業務や行事を適切に行っている。 ○サービスの質の向上や利用促進のための取り組みがなされている。
	II 施設の運営管理体制	○職員の勤務実績や配置状況及び施設の開館状況は、仕様書のとおり適切である。 ○指定管理料は適正に執行されている。 ○個人情報保護に努めるとともに、図書館情報システムのセキュリティ対策を徹底している。 ○危機管理マニュアルを作成し、必要な研修を実施している。 ○災害発生時の訓練は、関係機関と合同で適切に実施している。	○職員の勤務実績や配置状況及び施設の開館状況は仕様書のとおり適切である。 ○指定管理料は適正に執行されている。 ○個人情報保護の取り扱いや図書館情報システムのセキュリティ対策を徹底し、事故防止チェックリストに基づき、事故や苦情等の事例を榴岡図書館と共有し、ヒヤリ・ハット集の充実を図っている。 ○災害発生時の訓練は、関係機関と合同で適切に実施している。	○職員の勤務実績や配置状況及び施設の開館状況は仕様書のとおり適切である。 ○指定管理料は適正に執行されている。 ○個人情報保護の取り扱いや図書館情報システムのセキュリティ対策を徹底し、事故防止チェックリストに基づき、事故や苦情等の事例を広瀬図書館と共有し、ヒヤリ・ハット集の充実を図っている。 ○災害発生時の訓練は、適切に実施している。
III	施設・設備の維持管理	○建物、設備及び備品は適切に管理されている。 ○持ち寄られた紙袋を本の持ち帰り用に希望する利用者へ提供したり、館内の子ども用トイレに節水を呼びかける掲示をする等、環境へ配慮した取り組みがなされている。	○建物、設備及び備品は適切に管理されている。 ○施設全体で組織するごみ減量委員会に参加してごみの減量に努めており、利用者も巻き込んだ再利用・再使用の取り組みとして不要となったエコバッグ等を必要な人に提供するなど、環境へ配慮した取り組みがなされている。	○建物及び設備は適切に管理されており、毎日定時に館内を巡回し、事故・犯罪の未然防止に努めている。 ○備品も適切に管理されている。 ○利用者から提供される紙袋を本の持ち帰り用に自由に利用してもらえるように設置するなど、環境に配慮した取り組みがなされている。
	IV サービスの質の向上	○利用者からの汚損本に関する声を受けて、資料の丁寧な取扱いについて、栗、図書館だより、ステッカー等様々な印刷物にてマナーアップを促した。 ○非来館型のおはなし会を開催することにより、読み聞かせを楽しむ親子の選択肢が増えた。 ○発行する情報誌に、コロナ禍における臨時休館の情報等をリアルタイムで提供できるように図書館ホームページの二次元コードを掲載し、図書館情報が身近に得られるように努めた。	○貸出予約の希望が多い「本屋大賞」候補タイトルの一覧表を作成し利用者閲覧用に設置した。 ○子どもの読書支援コーナーの棚を拡大して読み聞かせやブックトーク資料とともに関連する一般書も併せて配架し装飾を施している。 ○新聞週日版の綴り単位を細分化する等、利用者への配慮に努めている。 ○接遇研修において認知症の方への対応を学び、全職員が認知症サポーターの認定を受け、様々な場面を想定したサービス向上を継続している。 ○職員の資質向上のため、リモート研修等にも積極的に参加している。	○手製の英語のコミュニケーションボードを利用案内に活用したり、書架の見出しを拡大し請求記号を加える等、常に利用者目線でサービス向上に努めている。 ○作業手順書に職員の意見を取り入れて工夫を加えたり、研修参加確認表で職員が必要な研修を受講できるよう配慮したりするなどの取り組みが行われている。
V	施設固有の基準	○若林区ジュニアリーダーを対象に読み聞かせの研修会を行い、おはなし会で実際に絵本の読み聞かせを行ってもらった。 ○オンラインによるおはなし会を開催し、非接触型のサービスとして、コロナ禍において来館が困難な利用者の需要に応えた。 ○震災の記憶を継承し震災文庫の利活用を図るため、仙台市博物館と連携して写真展を開催した。 ○若林区の農業地帯としての成り立ちに着目し、仙台市東部沿岸地域で農業に取り組む若手就農者による講演を行った。	○蔵書管理業務においては、館内整理日を活用して不明資料を洗い出す全点チェック作業を継続的・計画的に実施している。 ○「子ども読書活動推進」において、中高生(YA世代)が選書支援やブックリストの作成等、図書館づくりに参加する選書アドバイザー会議を年に5回、継続的に開催し、YA世代が本に親しみやすい環境を引き続き推進している。 ○仙台市天文台と連携した「子ども天文教室」、仙台高等専門学校広瀬キャンパスの「古本市」への譲渡本の提供、広報等の協力のほか、尚絅学院大学の学生向けに読み聞かせのワークショップを実施した。 ○地域施設などとの連携事業は、コロナ禍においても工夫しながら行われた。	○ヤングアダルト世代(中高生)に向けた読書活動推進の事業として、選書サポーターとして学生を募り、ともに選書・展示・広報誌づくりを行う取り組みを継続的に行っている。 ○広瀬図書館との連携により尚絅学院大学で読み聞かせのワークショップを継続しており、仙台青葉学院短期大学では読み聞かせの講座を開催した。 ○東口ガイドボランティア「宮城野さんぼみち」との協働事業「まちあるき 土井晩翠ゆかりの地を歩く」を開催し関連資料の展示を行った。 ○歴史民俗資料館との連携事業では「学都と杜の都の成り立ち」として学芸室長より特別展の解説を含む講話と関連資料を展示するなど、地域の団体や外部機関との連携を積極的に図っている。

【総合評価（得点／配点）】

SS：110%以上

S：100%以上～110%未満

A：90%以上～100%未満

B：70%以上～90%未満

C：50%以上～70%未満

D：50%未満

《施設設置者（仙台市）による評価》	《施設設置者（仙台市）による評価》	《施設設置者（仙台市）による評価》			
<p>新寺こみち市やのびすく若林でのおはなし会など地域に出向いた事業や、ジュニアリーダー対象の研修など、子どもの読書活動を支える取り組みを積極的に実施。「オンラインおはなし会」は、コロナ禍における利用者の需要に応えた。</p> <p>また、情報リテラシー支援講座は、電子図書館の活用に向け利用者を積極的にサポートする機会となるなど、「市民一人ひとりに利用しやすい図書館」の推進に取り組んだ。</p> <p>博物館と連携したパネル展示では、災害の歴史を知り防災意識を向上させる機会としたほか、若手就農者の講演と併せて分担収集分野である農業関連資料のPRを行った。そのほか、仙台七夕関連パネル展、バックヤードツアー、ぬいぐるみおとまり会や絵本作家講演会など、関係機関や地域施設と連携し、幅広い分野で趣向を凝らした事業を実施。新型コロナウイルス感染症対策としては、館内の消毒や換気等を適切に行った。</p> <p>職員研修では、個人情報保護や人権啓発、接遇などをテーマにした全職員対象の研修のほか、分野別の研修メニューも充実している。</p> <p>以上、施設の設置目的に沿って適切に管理運営を行うとともに、ノウハウを活かした創意工夫によりサービス向上に取り組んでおり、大いに評価できる。</p>	<p>開館30周年記念事業「飛び出す紙芝居 劇場版『アーリー博士とレイト怪人』」が大盛況であったほか、記念展示「なんでも30」等により利用者へ感謝を込め「地域・市民に役立ち、共に成長を続ける図書館」の実現に取り組んだ。</p> <p>また、スタッフによるMY本棚では「SDGs」をテーマに取り入れ、GOALの内容別の展示と併せ、環境局と連携し「せんだい食品ロスダイアリー」の配布等を行った。</p> <p>中高生を対象とする選書アドバイザー会議は、図書館作りの世界へと誘い、「えいごdeおはなし会」など特色あるイベントは、読書文化を育む取り組みとなった。そのほか、2年連続で中止となった「宮城地区まつり」に代わるイベントの企画運営に加わる等、コロナ禍においても関係機関や地域施設と連携し、工夫を凝らして魅力的な事業を実施。新型コロナウイルス感染症対策としては、独自チェック表で館内消毒や換気等の徹底を図った。</p> <p>職員研修では、全職員向け認知症サポーター養成講座の実施し、各種リモート研修への積極的参加など、職員の資質向上を図った。</p> <p>以上、施設の設置目的に沿って適切に管理運営を行うとともに、ノウハウを活かした創意工夫によりサービス向上に取り組んでおり、大いに評価できる。</p>	<p>SDGsの啓蒙活動を継続的なテーマとし、クイズ形式で関連児童書を紹介するほか、関連資料の展示を拡大してアンケートを実施する等、年間を通じ趣向を凝らした取り組みを行った。</p> <p>また、地域ガイドボランティア団体との協働事業、歴史民俗資料館や市民センターとの連携事業、防災コーナーの書架に地元町内会の防災マップを掲示するなど、地域に根差した交流を深め、「地域・市民に役立ち、共に成長を続ける図書館」の実現に取り組んでいる。</p> <p>さらに、中高生の選書サポーターを継続して募集し、ヤングアダルト世代の読書推進を図るとともに、大学等への講師派遣など、図書館を担う専門職の育成にも貢献。利用者サービスにおいては、書架の上段を活用して蔵書スペースを新たに確保したり、スタッフお気に入り本を手書きメッセージで紹介したりするなど、限られたスペースを最大限に活かし、魅力ある快適な図書館づくりに努めた。</p> <p>新型コロナウイルス感染症対策としては、複合施設の協力を得て、おはなし会等で密を避けられる広い部屋を使用するようにした。</p> <p>以上、施設の設置目的に沿って適切に管理運営を行うとともに、ノウハウを活かした創意工夫によりサービス向上に取り組んでおり、大いに評価できる。</p>			
総合評価	S	総合評価	S	総合評価	S

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市若林図書館	
2 指定管理者	株式会社ヴィアックス	
3 指定期間	平成30年4月1日～令和5年3月31日	
4 施設の利用状況	《利用者数》 令和3年度 157,482人団体〔個人：157,328人、団体・文庫：154団体〕（前年度比 101.9%） 令和2年度 154,486人団体〔個人：154,318人、団体・文庫：168団体〕（前年度比 85.1%） 令和元年度 181,597人団体〔個人：181,302人、団体・文庫：295団体〕（前年度比 108.3%）	
	《事業》 仙台市若林図書館の運営管理	
5 収支の状況	《費用》 ・ 指定管理者に支払った費用 97,154千円 (97,154千円) ・ その他市が負担した費用 29,402千円 (15,668千円)	
	《収入》 ・ 使用料収入 0千円 (0千円) ・ その他収入 24千円 (22千円)	
6 利用者の声	《実施状況》 ・ 利用者アンケート 実施期間：令和3年12月10日～12月23日 ・ 利用者懇談会 開催日：令和4年2月12日～3月1日	

()は前年度決算額

二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	図書館の設置目的を踏まえて策定された施設運営上の基本方針に基づき管理運営されており、全館共通の業務や行事を適切に行っている。また、サービスの質の向上や利用促進のための取り組みがなされている。	24/24
II 施設の運営管理体制	職員の勤務実績や配置状況及び施設の開館状況は仕様書のとおり適切であり、指定管理料は適正に執行されている。 個人情報保護に努めるとともに図書館情報システムのセキュリティ対策を徹底している。 危機管理マニュアルを作成し、必要な研修を実施している。 災害発生時の訓練は、関係機関と合同で適切に実施している。	30/30
III 施設・設備の維持管理	建物、設備及び備品は適切に管理されている。また、カウンターでは持ち寄られた紙袋を本の持ち帰り用に希望する利用者へ提供したり、館内の子ども用トイレに節水を呼びかける掲示をする等、環境へ配慮した取り組みがなされている。	17/17
IV サービスの質の向上	利用者からの汚損本に関する声を受けて、資料の丁寧な取扱いについて、栗、図書館だより、ステッカー等様々な印刷物にてマナーアップを促した。また、非来館型のおはなし会を開催することにより、読み聞かせを楽しむ親子の選択肢が増えた。発行する情報誌には、コロナ禍における臨時休館の情報等をリアルタイムで提供できるように図書館ホームページの二次元コードを掲載し図書館情報が身近に得られるように努めた。	27/27
V 施設固有の基準	若林区ジュニアリーダーを対象に読み聞かせの研修会を行い、おはなし会で実際に絵本の読み聞かせを行ってもらった。また、オンラインによるおはなし会を開催し、非接触型のサービスとして、コロナ禍において来館が困難な利用者の需要にこたえた。 また、震災の記憶を継承し震災文庫の利活用を図るため、仙台市博物館と連携して写真展を開催した。若林区の農業地帯としての成り立ちに着目し、仙台市東部沿岸地域で農業に取り組む若手就農者による講演を行った。	18/16

三 評価総括

《指定管理者（株式会社ヴィアックス）による自己評価》
<p>令和3年度はコロナ禍の中、感染拡大防止対策を適切に講じながら事業を実施するとともに、若林図書館の持つ特徴や地域特性を活かし、「地域・市民に役立ち、共に成長を続ける図書館」の実現を目標に運営を行った。自主事業では地域や関係機関と連携した事業を中心に取り組み、図書館利用の促進を図った。中でも、震災関連事業や農業連携事業では、津波被害の大きかった仙台市東部沿岸地域の被災状況から復興までのさまざまな取組みについて、市民の方々に知ってもらおう契機とした。併せて、仙台市図書館で進める「震災文庫」の資料や若林図書館で分担収集する農業分野の資料の利用促進を図る機会となった。定例事業として、来館型のおはなし会を開催していたが、感染拡大に伴い開催できない期間もあったことから、非来館型のオンラインおはなし会を実施し、参加機会の充実に努めた。参加した親子からは好評で、新たな利用者の獲得につながった。加えて、「朗読コンサート」や「絵本作家講演会」「SDGsをテーマとした映画鑑賞会」など年齢層に合わせた多様な事業を実施した。これらの取組みにより、既存利用者の満足度を上げるとともに、新たな利用者の図書館への来館促進につなげることができた。さらに、11月に開設した「せんだい電子図書館」の普及を図るため、使用方法を学習する情報リテラシー支援講座を開催した。また、図書を紹介したボランティア活動を行う方向けのステップアップ講座を開催し、地域のボランティア活動の情報交換となる場を提供することができた。職員研修では、全従事者対象の研修として、認知症サポーター養成講座を実施するほか、児童担当職員を対象に、本社オンラインシステムを活用し、他館とコロナ禍でのイベントや取組みを報告し合うなど、情報の共有化を図り、自館事業の充実に努めた。施設管理面では全集やシリーズの図書を専用の書架に配架するなど、利用しやすい環境を提供できた。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>令和3年度は、子どもの読書活動を支える取り組みを積極的に行い、地域イベント「新寺こみち市」における「ヤギさんおはなしかい」、のびすく若林でのおはなし会など地域に出向いての事業や、市民センターとの連携によるジュニアリーダーを対象とした読み聞かせ研修などを実施した。</p> <p>また、関係機関や地域施設と連携し、幅広い分野で趣向を凝らした事業を実施している。休館中の博物館からパネルを借用して「東部沿岸地域の歴史と記録」と題した展示を行い、災害の歴史を知り、防災意識を向上させる機会としたほか、せんだい農業園芸センターとの連携では、東部沿岸地域の若手就農者の講演を開催し、併せて分担収集分野である農業関連資料のPRを行った。そのほか、仙台七夕関連パネル展、バックヤードツアー、ぬいぐるみおとまり会や絵本作家講演会などを開催した。</p> <p>さらに、市民一人ひとりに利用しやすい図書館を推進する取り組みとして、「オンラインおはなし会」は、乳幼児親子への読書支援を充実させるとともに、コロナ禍において利用者の需要に応える非接触型サービスとして評価できる。また、情報リテラシー支援講座は、令和3年11月に開始されたせんだい電子図書館の活用に向け、利用者を積極的にサポートする機会となった。</p> <p>職員研修については、個人情報保護や人権啓発、接遇などをテーマにした全スタッフ対象の研修のほか、分野別の研修メニューも充実している。</p> <p>新型コロナウイルス感染症対策に関しては、館内の消毒や換気等を適切に行った。</p> <p>以上、若林図書館の指定管理者は、施設の設置目的に沿って適切に管理運営を行うとともに、ノウハウを活かした創意工夫によりサービス向上に取り組んでおり、大いに評価できる。</p>	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：教育局市民図書館

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市広瀬図書館	
2 指定管理者	丸善雄松堂 株式会社	
3 指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日	
4 施設の利用状況	《利用者数》 令和3年度 107,836人団体〔個人：107,546人、団体・文庫：290団体〕（前年度比 103.5%） 令和2年度 104,218人団体〔個人：103,955人、団体・文庫：263団体〕（前年度比 84.0%） 令和元年度 124,099人団体〔個人：123,598人、団体・文庫：501団体〕（前年度比100.2%）	
	《事業》 仙台市広瀬図書館の運営管理	
5 収支の状況	《費用》（ ）は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 56,100千円（54,869千円） ・ その他市が負担した費用 8,226千円（8,752千円）	
	《収入》 ・ 使用料収入 0千円（0千円） ・ その他収入 19千円（15千円）	
6 利用者の声	《実施状況》 ・ 利用者アンケート 実施期間：令和3年12月10日～12月23日 ・ 利用者懇談会 開催日：令和4年2月2日～3月15日	

二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	図書館の設置目的を踏まえて策定された施設運営上の基本方針に基づき管理運営されており、全館共通の業務や行事を適切に行っている。また、サービスの質の向上や利用促進のための取り組みがなされている。	24/24
II 施設の運営管理体制	職員の勤務実績や配置状況及び施設の開館状況は仕様書のとおり適切であり、指定管理料は適正に執行されている。 個人情報保護の取り扱いや図書館情報システムのセキュリティ対策を徹底し、事故防止チェックリストに基づき、事故や苦情等の事例を榴岡図書館と共有し、ヒヤリ・ハット集の充実を図っている。災害発生時の訓練は、関係機関と合同で適切に実施している。	30/30
III 施設・設備の維持管理	建物、設備及び備品は適切に管理されている。施設全体で組織するごみ減量委員会に参加してごみの減量に努めており、利用者も巻き込んだ再利用・再使用の取り組みとして不要となったエコバッグ等を必要な人に提供するなど環境へ配慮した取り組みがなされている。	17/17
IV サービスの質の向上	貸出予約の希望が多い「本屋大賞」候補タイトルの一覧表を作成し利用者閲覧用に設置したり、子どもの読書支援コーナーの棚を拡大して読み聞かせやブックトーク資料とともに関連する一般書も併せて配架し装飾を施している。新聞過日版の綴り単位を細分化する等、利用者への細やかな配慮に努めている。 接遇研修においては認知症の方への対応を学び、全職員が認知症サポーターの認定を受け様々な場面を想定したサービス向上を継続している。職員の資質向上のため、リモート研修等にも積極的に参加している。	27/27
V 施設固有の基準	蔵書管理業務においては、館内整理日を活用して不明資料を洗い出す全点チェック作業を継続的・計画的に実施している点が評価できる。 仕様書に定められた全館共通事業にある「子ども読書活動推進」においては、中高生（YA世代）が選書支援やブックリストの作成等、図書館づくりに参加する選書アドバイザー会議を年に5回、継続的に開催し、YA世代が本に親しみやすい環境を引き続き推進している。 自主事業は、仙台市天文台と連携した「子ども天文教室」、仙台高等専門学校広瀬キャンパスの「古本市」への譲渡本の提供、広報等の協力のほか尚絅学院大学の学生向けに読み聞かせのワークショップを実施した。地域施設などとの連携事業は、コロナ禍においても工夫しながら行われた。	18/16

三 評価総括

《指定管理者（丸善雄松堂株式会社）による自己評価》
<p>令和3年度の図書館運営は、図書館振興計画の施策に基づき独自策定の基本方針を掲げて実施した。事業計画を基本としつつ、コロナ禍における感染拡大防止の取組に確かな実効性を持たせるため、時に柔軟な図書館運営にも対応した。1. 基本業務は、図書館の基礎的機能を充実させるための業務効率化や宮城総合支所との協力を継続して取り組んだ。仙台市図書館の非来館型サービスとして開始された電子図書館に関わる対応も着実に実施することができた。2. 自主事業は、開館30周年事業として、館長講演会や演劇公演等の行事や「30」をキーワードとした資料展示、30年を振り返る年表の作成など、利用者への感謝を示すとともに改めて広瀬図書館の利用を促進する取組を行い、多くの参加者や反響を得ることができた。年間事業参加者数は延べ5,881人に上った。3. 利用実績は、前年度比で利用者数/日（延べ人数）が44.9人増、貸出冊数/日が203.2冊増、返却冊数/日が167.0冊増といずれも増加した。昨年度から実施している館内の感染症対策が利用者の安心感を生み、利用回復の一助となったものと考えられる。4. 職員に対する教育研修は、昨年に引き続きリモート研修を積極的に活用し、指定管理者研修、仙台市図書館主催研修、外部研修に参加した。研修報告書の作成などを通じた研修内容の共有についても継続して実施した。5. 運営の評価は、自己評価や市民図書館による定例監査のほか、第三者評価として「利用者アンケート」を実施した。また、図書館利用者等の意見・評価を得ることを目的とした「利用者懇談会」及び「ボランティア懇談会」は、コロナ感染者数の減少が見られないことから書面開催した。6. 施設管理は、「仙台市公共施設点検要綱」に基づく定期点検を適切に実施した。また、入居施設である広瀬文化センターとの緊密な連絡により効率的な施設管理を行うことができた。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>令和3年度は、開館30周年を迎え文化センター・市民センターとの共催事業 飛び出す紙芝居 劇場版「アーリー博士とレイト怪人」が大盛況であったほか、記念展示「なんでも30」で「30」に関連する資料展示等により利用者へ感謝を込め「地域・市民に役立ち、共に成長を続ける図書館」の実現に取り組んだ。</p> <p>また、スタッフによるMY本棚では「SDGs」をテーマに取り入れ、GOALの内容別の展示替えと、インパクトのある書架サインの掲示、環境局家庭ごみ減量課と連携した「せんだい食品ロスダイアリー」の配布や「モッタイナイキッチン」の周知を併せて行った。</p> <p>中高生（ヤングアダルト世代）を対象とする選書アドバイザー会議は、5回にわたる選書支援・書店への選書ツアー・同世代向けブックリストの作成等によって図書館作りの世界へと誘い、子ども読書フェスティバルで毎年好評の「えいごdeおはなし会」など特色あるイベントを開催するなど読書文化を育む図書館への取り組みとなった。そのほか天文台スタッフサポーターを対象とする読み聞かせ研修、児童向け天文教室、2年連続で中止となった「宮城地区まつり」に代わるイルミネーション点灯イベントの企画運営に加わる等、コロナ禍で臨時休館や主催イベントの延期・中止・変更等を余儀なくされながら、関係機関や地域の施設と連携して工夫を凝らして魅力的な事業を実施している。</p> <p>新型コロナウイルス感染症対策としては、館内消毒や換気等について、独自チェック表で徹底を図った。</p> <p>職員の教育・研修は、全職員向け接遇研修として認知症サポーター養成講座を実施するほか、各種リモート研修にも積極的に参加し、職員の資質向上を図った。</p> <p>以上、広瀬図書館の指定管理者は、施設の設置目的に沿って適切に管理運営を行うとともに、ノウハウを活かした創意工夫によりサービス向上に取り組んでおり、大いに評価できる。</p>	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：教育局市民図書館

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市榴岡図書館	
2 指定管理者	丸善雄松堂 株式会社	
3 指定期間	平成29年4月1日～令和4年3月31日	
4 施設の利用状況	《利用者数》 令和3年度 96,265人団体〔個人：96,178人，団体・文庫：87団体〕（前年度 102.7%） 令和2年度 93,711人団体〔個人：93,619人，団体・文庫：92団体〕（前年度比 84.8%） 令和元年度 110,495人団体〔個人：110,296人，団体・文庫：199団体〕（前年度比 102.1%）	
	《事業》 仙台市榴岡図書館の運営管理	
5 収支の状況	《費用》 ()は前年度決 ・ 指定管理者に支払った費用 45,232千円 (45,232千円) ・ その他市が負担した費用 12,132千円 (12,572千円)	
	《収入》 ・ 使用料収入 0千円 (0千円) ・ その他収入 18千円 (13千円)	
6 利用者の声	《実施状況》 ・ 利用者アンケート 実施期間：令和3年12月10日～12月23日 ・ 利用者懇談会 開催日：令和4年2月19日～3月8日	

二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	図書館の設置目的を踏まえて策定された施設運営上の基本方針に基づき管理運営されており、全館共通の業務や行事を適切に行っている。また、サービスの質の向上や利用促進のための取り組みがなされている。	24/24
II 施設の運営管理体制	職員の勤務実績や配置状況及び施設の開館状況は仕様書のとおり適切であり、指定管理料は適正に執行されている。 個人情報保護の取り扱いや図書館情報システムのセキュリティ対策を徹底し、事故防止チェックリストに基づき、事故や苦情等の事例を広瀬図書館と共有し、ヒヤリ・ハット集の充実を図っている。災害発生時の訓練は、適切に実施している。	30/30
III 施設・設備の維持管理	建物及び設備は適切に管理されており、毎日定時に館内を巡回し、事故・犯罪の未然防止に努めている。利用者から提供される紙袋を本の持ち帰り用に自由に利用してもらえるように設置するなど環境に配慮した取り組みもなされており、備品も適切に管理されている。	17/17
IV サービスの質の向上	手製の英語のコミュニケーションボードを利用案内に活用したり、書架の見出しを拡大し請求記号を加える等、常に利用者目線でサービス向上に努めている。また、作業手順書に職員の意見を取り入れて工夫を加えたり、研修参加確認表で職員が必要な研修を受講できるよう配慮したりするなどの取り組みが行われている。	27/27
V 施設固有の基準	ヤングアダルト世代(中高生)に向けた読書活動推進の事業としては、選書サポーターとして学生を募り、ともに選書・展示・広報誌づくりを行う取り組みを継続的に行っている。また、広瀬図書館との連携により尚絅学院大学で読み聞かせのワークショップを継続しており、仙台青葉学院短期大学では読み聞かせの講座を開催した。 東口ガイドボランティア「宮城野さんぼみち」との協働事業「まちあるき 土井晩翠ゆかりの地を歩く」を開催し関連資料の展示を行ったほか、歴史民俗資料館との連携事業では「学都と杜の都の成り立ち」として学芸室長より特別展の解説を含む講話と関連資料を展示するなど、地域の団体や外部機関との連携を積極的に図っている。	18/16

三 評価総括

《指定管理者（丸善雄松堂株式会社）による自己評価》
<p>1.令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大によって各種自主事業の休止等があったが、その中でも指定管理者として「基本方針」と「仙台市図書館振興計画（第2次）」に基づき、地域の教育機関、団体等との連携を促進し、利用者サービスの向上を図るとともに、地域に根ざし親しまれる図書館を目指して業務と自主事業を進めた。</p> <p>2.自主事業は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴って一部実施を自粛した事業もあるが、その中においても工夫して事業を実施した。特にSDGsに関する取組みとして前年度も実施した「SDGsアンケート」の他、今年度は「SDGsクイズ」を3ヶ月に渡り実施した。単日の事業ではなく展示形式で実施することで、コロナ禍においても利用者に無理な外出を促すことなく実施できたと考える。その後実施した児童向け事業「ルーレットを回してSDGsを学ぼう」のSDGsの基本に関する問題では、参加者全員が正解し、展示等による学習の結果が感じられた。次年度も引き続きSDGsの啓蒙活動を進めていきたい。</p> <p>3.利用実績は、貸出冊数/日が67.9冊増、返却冊数/日が49.2冊増となった。コロナ禍における影響は排除できないが、貸出冊数の増加率(7.7%)が返却冊数の増加率(5.8%)より高いことから、展示や自主事業による利用促進の効果ができていると考える。</p> <p>4.教育研修は、遠隔研修を中心に積極的に参加し、図書館ニーズの把握に努めた。</p> <p>5.施設管理は、文庫本への買替えを進めるとともに閉架書架の配置替えを行う等、限られたスペースでもより資料を活用しやすいように整えた。またコミュニケーションボードを設置し、誰もが使いやすい図書館を目指した。新型コロナウイルス感染症対策としては、前年度に引続き、定時でアルコール消毒を行う体制とするとともに、定例おはなし会等については仙台市生涯学習支援センターと協力し、実施してきた。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>令和3年度は、SDGsの啓蒙活動を継続的なテーマとしていることから、クイズ形式で関連児童書を紹介するほか、児童書・一般書の各コーナーで関連資料の展示を拡大してアンケートを実施する等、年間を通じ趣向を凝らした取り組みを行った。</p> <p>地域ガイドボランティア団体との協働事業として、土井晩翠ゆかりの地を巡る「まち歩き」で晩翠草堂周辺から仙台駅東口界隈までを案内し関連資料の展示を行ったほか、歴史民俗資料館や福沢市民センターとの間では講師の依頼や派遣を行い、また防災コーナーの書架に地元町内会の防災マップを掲示するなど、地域に根差した交流を深め、「地域・市民に役立ち、共に成長を続ける図書館」の実現に取り組んでいる。</p> <p>ヤングアダルト世代の読書推進を目的に、継続して中高生の選書サポーターを募集し、図書館の選書・POP作成・書架の装飾・ブックリスト作成等の支援を行った。仙台青葉学院短期大学、尚絅学院大学とは読み聞かせに関わる講師派遣などで連携を図り、図書館を担う専門職の育成にも貢献している。</p> <p>利用者サービスにおいては、外国人向けコミュニケーションボードや児童用バスファインダーの作成を行った。館内の配置を絶えず工夫し、書架の上段を活用してブックスタンドを追加することにより蔵書スペースを新たに確保し、入口の児童書展示コーナーにスタッフお気に入り本を手書きメッセージで紹介するなど、限られたスペースを最大限に活かし、魅力ある快適な図書館づくりに努めた。</p> <p>新型コロナウイルス感染症対策としては、定期的な消毒等を行ったほか、おはなし会等の開催に際し、複合施設である生涯学習支援センターの協力を得て、密を避けられる広い部屋を使用するようにした。</p> <p>以上、榴岡図書館の指定管理者は、施設の設置目的に沿って適切に管理運営を行うとともに、ノウハウを活かした創意工夫によりサービス向上に取り組んでおり、大いに評価できる。</p>	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

--

◎ 評価担当課（施設所管課）：教育局市民図書館